

第 29 回 国分川調節池を育む会

日時：平成 29 年 3 月 15 日（水）午後 6 時 30 分～

場所：曾谷公民館 第 1、第 2 研修室

次 第

1. あいさつ

2. 自然ふれあいゾーンの設計について

(1) これまでの検討とアンケートについて

(2) アンケートを受けての市の設計案について

(3) 専門家からの意見

(千葉大学大学院園芸学研究科 近江慶光氏)

(4) 意見交換・質疑応答

(5) まとめ

3. 事務連絡

<資料>

- ・自然ふれあいゾーン図面一式

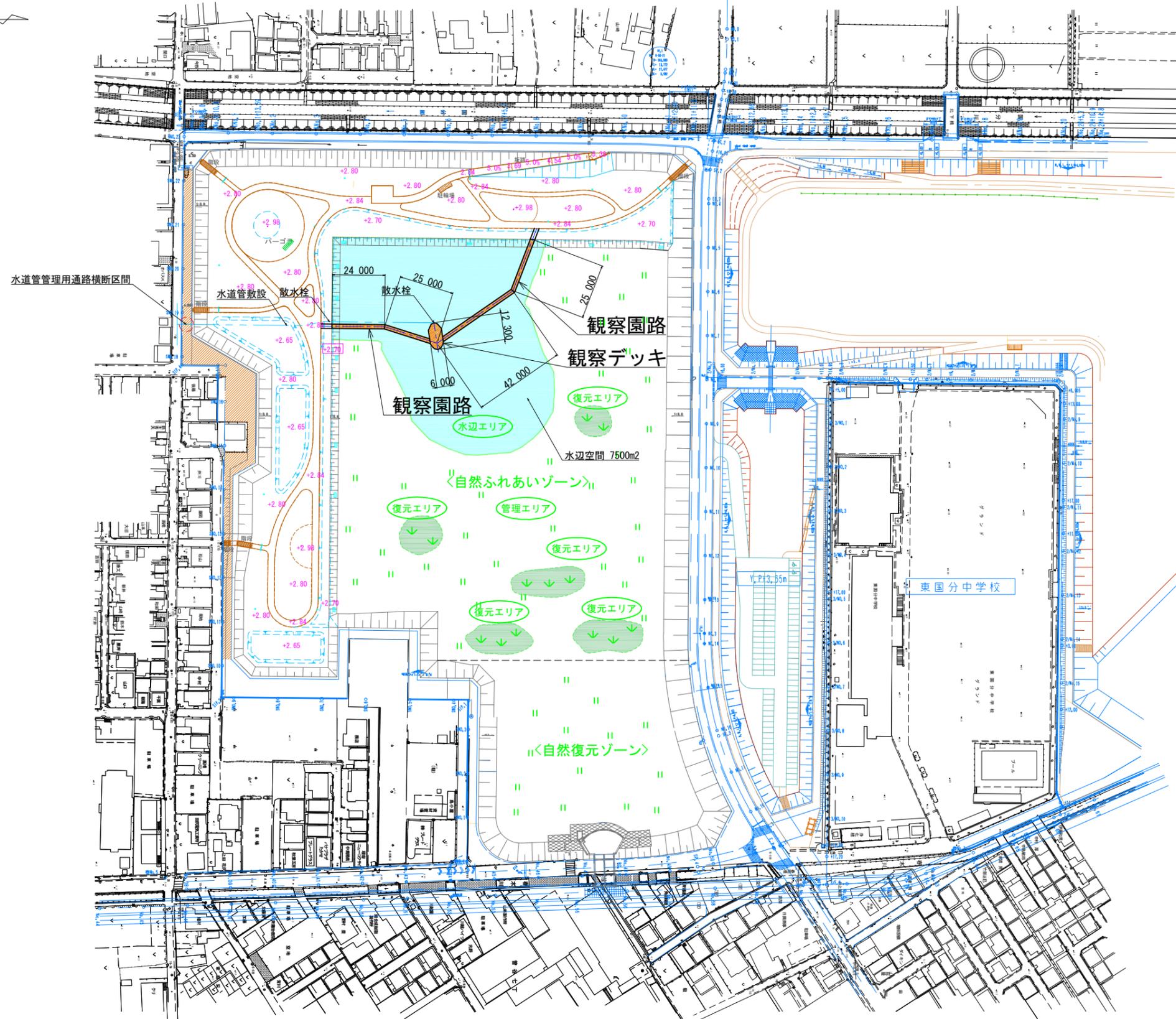
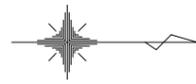
事務局（市川市役所 公園緑地課）

TEL：047-712-6367（直通）

FAX：047-712-6365

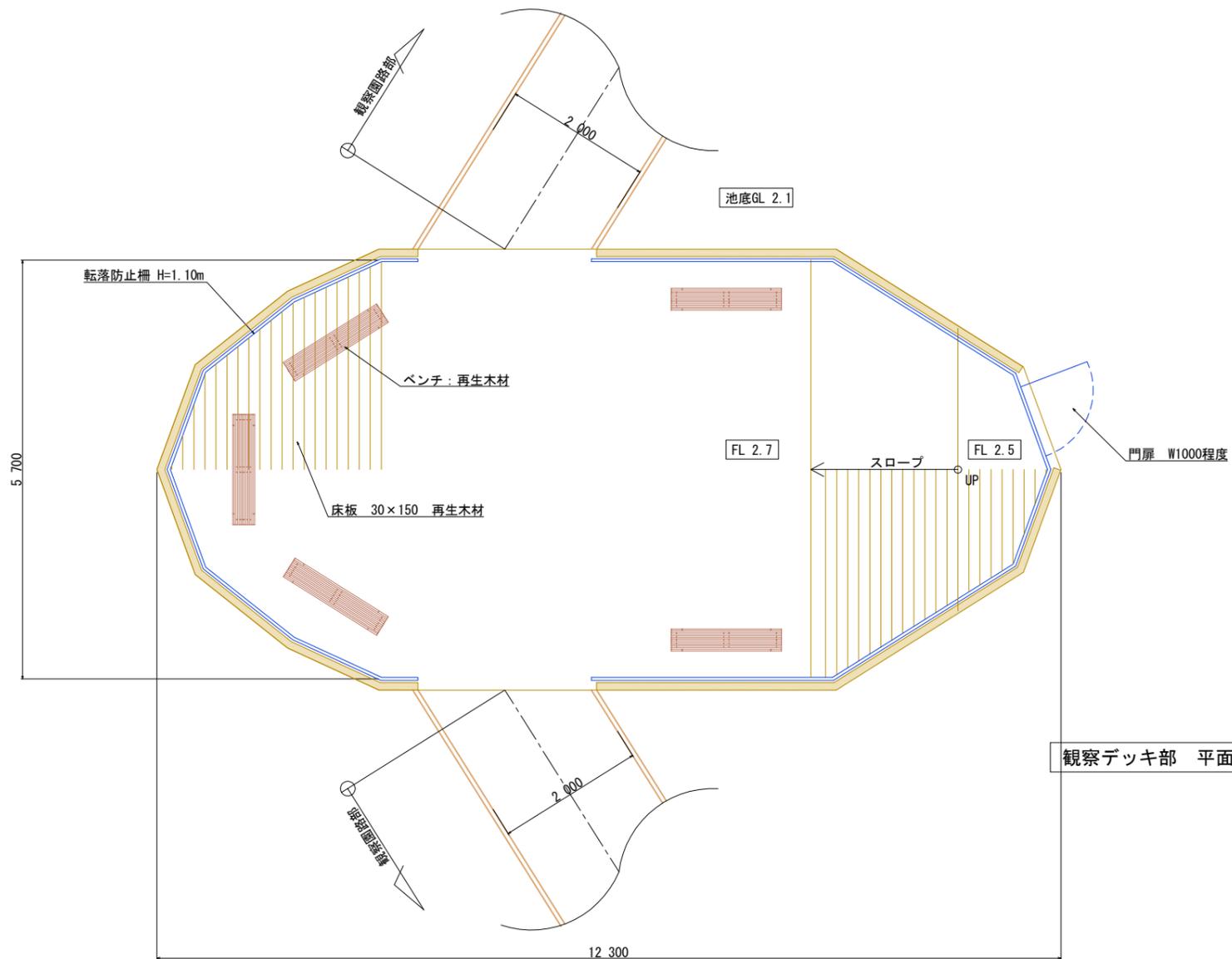
メール：midoriseibi2@city.ichikawa.chiba.jp

平面図（下池）（案） S=1:1000 (A1)

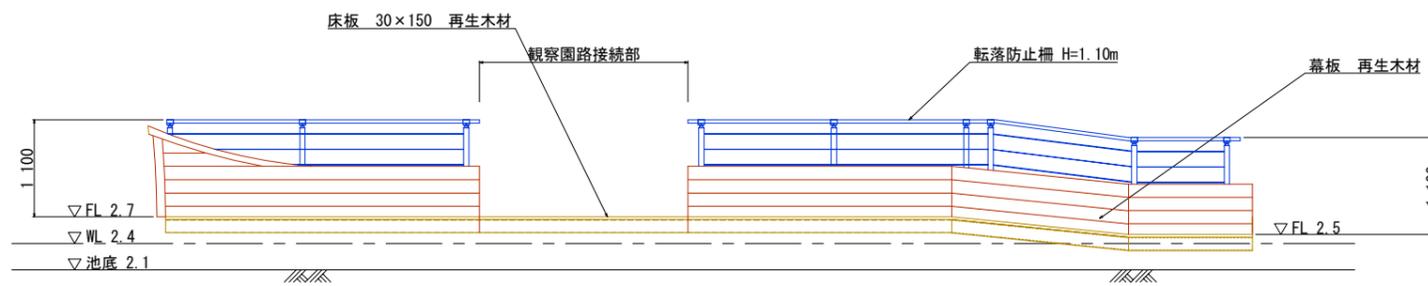


業務名	計画平面図（下池）
図面名	計画平面図（下池）
年月日	平成29年3月
縮尺	1:1000 (A1) 図面番号 /
会社名	和合建設コンサルタント株式会社

国分川調節池

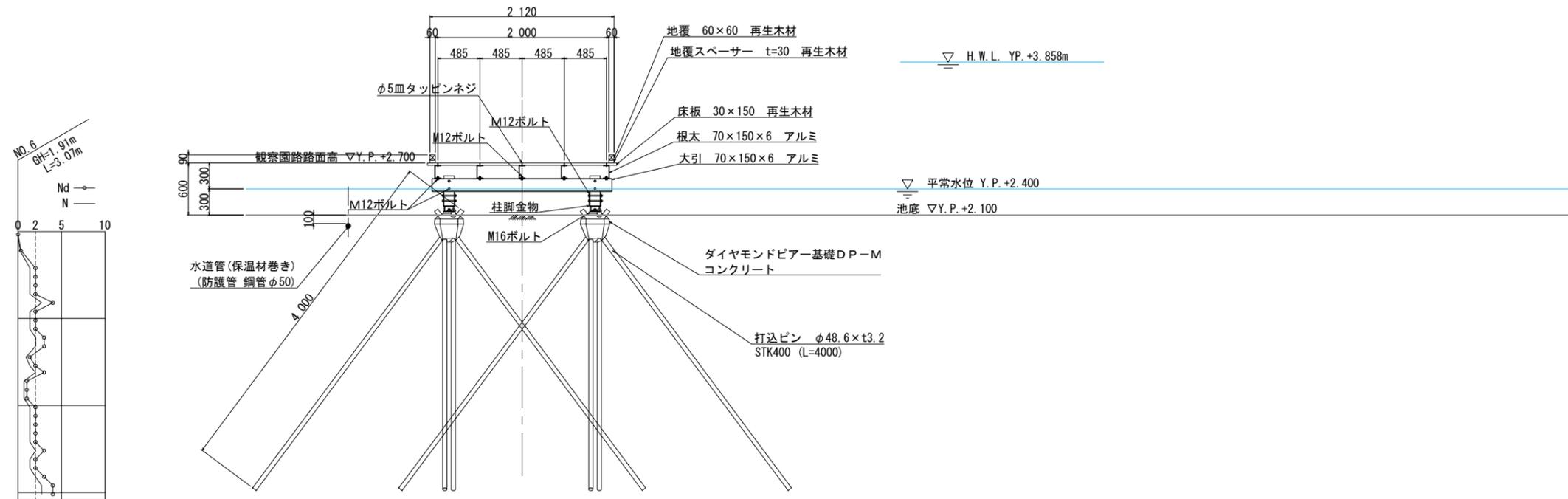


観察デッキ部 平面イメージ S=1/40



観察デッキ部 側面イメージ S=1/40

観察園路標準断面図(案) S=1:30



観察園路イメージ写真 1 (参考写真)



観察園路イメージ写真 2 (参考写真)

☆人間からの圧（プレッシャー、ストレス）を生き物に感じさせない形態

角ばった人工的な形態ではなく、角を落とした姿。曲線的なデザイン。

構造物の表面積を少なくすることで、生き物への圧（プレッシャー、ストレス）を極力減らす。

☆環境にとけ込むようなアースカラー（自然の色）

生き物に圧（プレッシャー・ストレス）を感じさせないデザイン

☆生き物に配慮した低い形態

一方で眺望のきく形態の方が自然観察は行い易いため、高さについては実用性と生き物・景観への配慮との間でバランスをとることが大切。

☆巨大な目立つ構造はやめ、必要最小限の大きさをシンプルで目立たない構造とする。一方で、日よけ対策や簡易な水道設備などの検討を行う。

自然観察会や小中学校の授業時に使える様に、ある程度の規模を想定。小学生 50 人程度（小学校の2クラス、もしくは少年野球の2チームが交代で自然観察を行える程度の大きさ）

一人 1~1.5 m²とすると 50~75 m²の床面積を確保したい。（6m×6m=36m² 6m×2m/2=6m² 計42m²）

概算すると約 42 m²。実際には、ベンチなどの構造物があり、これ以下のスペースとなる。小学生 50 人が交代してなんとか観察に参加できる（快適な状態を想定すると 20 人~30 人くらいか）空間が確保できる必要最小限の大きさ。

以前、検討されていたマストやイカリ（？）などの装飾はやめて、シンプルで目立たない構造とする。一方で、日よけ対策や簡易な水道設備などの検討を行う。

☆動的な空間ではなく、静的な空間

ジャングルジムや滑り台のような動的な公園遊具ではなく、静的なものとしてデザインする。自然観察はもちろんのこと、ベンチに腰掛けながら鳥の鳴き声を聴いたり、風を感じたり、お日様の光を楽しむような、自然の中で環境を満喫するような空間を目指す。

以上の留意点から、設計を大幅に見直し、再度、提案していただくこととした。

~~（補足1）野鳥観察について~~

~~「園路を渡る人の姿が既に野鳥には見えており、観察舎（ハイド）のようなものは不要」という意見もありましたが、ここではその効力・効果よりも、むしろ人が園路に滞留しないために、“野鳥観察の場”を設けて欲しいと思います。園路にスコープ（三脚付きの望遠鏡）を設置する人が出てくることは望ましくありません。~~

表 前回の意見と改善案との対応表

委員の意見	近江 コメント	対応	課題(近江)	
環境への配慮	必要最小限の大きさ	活用とのバランスを考慮して	アースカラーで、イカリやマストを廃止に。観察デッキとしての機能に絞ったシンプルで目立たないデザインに。	園路に自然観察のカメラマンがならない様に、スムーズに観察デッキに移動させることが大切。
	華美なデザインは不要(シンプル)。海に浮かぶような船の形状は不適。	アースカラーで装飾は最小限に		
	自然にとけ込むデザイン(目立たないデザイン)	低く、丸みを帯びた形。観察施設部分は、機能とのバランスを。		
具体的案	四角いデッキ	四角いデッキはシンプル(素朴)なのですが、規模が大きくなると角ばったデザインが圧迫感をもたらします。	マストを廃止し、デッキ部分には日よけを取り付け可能に。最小限のサイズで環境に配慮した低く、シンプルなデザインとする。ハイドについても、最小限のデザインにとどめる。	小学校等の教育利用で観察デッキを使用するとなると、実際には必要最小限の面積と言うより、多少窮屈なサイズになる。この点は、どのような利用を今後行うかが不明瞭のため、判断しにくい。
	日よけ等の配慮	日よけやベンチ等の休憩施設は必要。できれば簡易な水道施設(イベント時のみの利用)。		
	野鳥観察用のハイドは不要	ハイドの有効性は現状では不確定。デザイン上、誘導という意味では有効では		

（補足2）道の駅との対応について

近隣に出来る道の駅との対応につきましては慎重にお願い致します。民間企業が運営する様ですが、住居系の市街地である当該地域においては施設内（道の駅内）の動線にとどめておくことが前提かと思えます。ここでは道の駅と当公園との関係性よりは、むしろ中学校脇に新設された駐車場との動線を考慮する必要があるかと思えます。

（補足3）収納スペースなどについて

細かい話ですが、ベンチ等が台風時の水没などで汚れた場合に清掃するブラシやバケツなどの収納スペースがあると便利かも知れません。